

取扱説明書

自走式芝刈機 ローンモアー

GRH537A



0269-79000



- 取扱説明書本文中に出てくる重要危険部分は、製品を使用する前に注意深くお読みいただき、十分理解してください。
- 本製品ご購入の際には、販売店より安全のための使用方法についての説明をお受けください。
- 取扱説明書はいつでもごらんになれるよう、品質保証書とともに大切に保管してください。
- 安全性維持のため、本紙定期点検表に従い年次点検をお受けください。(有料)
- 本製品の保守には必ずメーカー純正品をご使用ください。

//// OREC

《販売店様へ》

本製品納品の際には納品前点検を行い、お客様から商品受領書をお受け取り後、メーカー控えを専用封筒にてご返送願います。

目 次

項 目	頁
《はじめに》	1
《定義とシンボルマークについて》	1
《本製品の規制について》	1
《重要なお知らせ》	2
《保証・契約書・免責事項》	2

1. ご使用の前に〈必ずお読みください〉

1.1 作業条件	3
1.2 作業をする前に	3
1.2.1 作業前の注意事項	3
1.2.2 作業前の点検・確認	4
1.2.3 火気厳禁・燃料の給油	4
1.3 作業中は	5
1.3.1 作業中の注意事項	5
1.3.2 操作上の注意事項	5
1.3.3 作業中の点検・停止・清掃	6
1.4 積み降ろし及び運搬時の注意	6
1.5 点検・整備	7
1.6 開梱後の組立について	8
1.7 保管時	8
1.8 警告表示マーク	9

2. 各部の名称とはたらき

2.1 各部の名称	10
2.2 各部のはたらき	11
①走行レバー	11
②ナイフレバー	11
③変速レバー	11
④前輪・後輪 刈高調整レバー	11
⑤スロットルレバー	11
⑥ハンドル固定ノブナット	11
2.3 方向について	12

3. 作業前の点検

3.1 エンジンオイルの点検	13
3.2 燃料の点検・給油	14

4. 運転・作業のしかた

4.1 エンジンの始動・停止のしかた	15
4.1.1 エンジン始動のしかた	15
4.1.2 エンジン停止のしかた	16
4.2 走行・変速・旋回・停止のしかた	16
4.2.1 走行・変速のしかた	16
4.2.2 旋回のしかた	17
4.2.3 停止のしかた	17
4.3 上手な作業のしかた	18
4.3.1 草刈作業のしかた	19
4.3.2 収草バックの取付・取外し	21
4.4 積み下ろし及び運搬	22
4.4.1 積み降ろしのしかた	23

5. 点検・整備・調整

5.1 オイルの点検・交換・注油	24
5.1.1 ミッションオイルの排油と給油	24
5.1.2 HST オイルの排油・給油	25
5.1.3 エンジンオイルの点検 ・交換・注油	26
5.1.4 可動部への注油	27
5.2 エンジン関連の清掃・点検・調整	28
5.2.1 エアクリーナーの清掃	28
5.2.2 点火プラグの点検・調整	29
5.2.3 燃料パイプの点検	29
5.2.4 燃料フィルターの清掃	30
5.3 製品本機関連の点検・調整	30
5.3.1 各部ワイヤ調整	31
①ワイヤの組付け位置	31
②走行クラッチワイヤ	31
③ナイフクラッチワイヤ	31
④スロットルワイヤ	32
⑤変速ワイヤ	32
5.4 ナイフの点検・交換・取付け	33
5.4.1 ナイフの点検・交換	33
5.4.2 ナイフの取付けかた	34
5.5 長期保管のしかた	35
5.5.1 長期保管の準備	35
5.5.2 次回使用時の注意	35

6. 付表

6.1 仕様（参考数値）	36
6.2 工具袋・同梱品明細	37
6.3 消耗品明細	37

7. 点検表

7.1 定期点検表
7.2 エンジンの不調とその処理方法
7.3 自己診断表

■取扱説明書について

- 本機を使用する前にこの取扱説明書をよくお読みください。
- 本機を貸与または譲渡される場合は、必ず本機と一緒にお渡しください。
- 紛失または破損した時は、直接販売店へご注文ください。

《はじめに》

- ✓ このたびは、本製品をお買い上げ頂きまして誠にありがとうございます。
- ✓ この取扱説明書は本製品を常に最良の状態に保ち、安全な作業をしていただく為に、正しい取扱い方法と簡単なメンテナンス方法について説明しております。
- ✓ ご使用の前に必ずこの取扱説明書を良くお読みいただき、安全な運転作業と正しい取扱方法を十分に理解し、安全で能率的な作業にお役立てください。
- ✓ また、お読みになった後はいつでも取り出してご覧になれるよう大切に保管し、本製品を末永くご使用頂けますようご活用ください。

《定義とシンボルマークについて》

本書では、危険度の高さ（または事故の大きさ）に従って、次のような定義とシンボルマークが使用されています。以下のシンボルマークがもつ意味を十分に理解し、その内容に従ってください。

シンボルマーク	定 義
 危険	その警告文に従わなかった場合、死亡または重傷を負うことになるものを示します。
 警告	その警告文に従わなかった場合、死亡または重傷を負う危険性があるものを示します。
 注意	その警告文に従わなかった場合、ケガを負う恐れがあるものを示します。また、遵守または矯正しないと、製品自体に損傷を与えるものも示します。
参 考	操作、保守において知っておくと得な製品の性能、誤りやすい操作に関する事項を示します。

《本製品の規制について》

- 1) 本製品は農業用の芝刈機として開発されておりますので、これ以外の用途（レンタル等で作業者が特定出来ないような使われ方）では使用しないでください。保証の対象外となる場合があります。
- 2) 地を這うように伸びるツタ、ツル等の草については刈取れない場合もあります。
- 3) 本製品は、日本国内でご使用頂くために、開発・生産されたものです。
海外の法規・規則・ルール・安全基準などに合致しておりませんので、品質や性能の保証、及び修理のご相談等を含むあらゆるサービスのご提供はできかねますので、ご了承願います。

《重要なお知らせ》

- 1) 性能・耐久性向上及びその他仕様変更による部品等の変更で、お手元の製品仕様と本書の内容が、一部一致しない場合がありますので、あらかじめご了承ください。
- 2) 本書の内容の一部、または全部を無断で複写複製（コピー）することは、法律で定められた場合を除き、著作権の侵害となりますので、予めご注意ください。
- 3) 本書では説明部位が具体的に理解できる様、写真・イラストを用いておりますが、説明部位以外は省略されて表示されている場合があります。
- 4) 本書は日本語を母国語としない方へのご使用を対象としておりません。

《保証・契約書・免責事項》

- 1) 本書とは別に本製品には品質保証書が添付されています。必ず品質保証書裏面の保証規約を熟読頂き、内容を理解しておいてください。
- 2) 本製品の保証期間は、新品購入から1ヶ年、または累計50時間使用（請負業務用については6ヶ月間、もしくは累計50時間使用）のうち、どちらか早い時点で到達した方となっています。
- 3) 全ての注意事項を予測する事は不可能です。製品を使用する際には作業側も安全への配慮が必要です。
- 4) 本書を読んでも判らない場合には勝手な操作はせず、必ず製品お買い上げの販売店（以降販売店）までご相談ください。
- 5) 製品を安全に効率よくご使用続けて頂く為には定期的な点検・整備が不可欠です。「定期点検表」及び「年次点検表」に記載の定期的な点検・整備を必ず最低毎年一回は販売店で依頼しましょう。
（有料）これらの点検・整備を行わなかった事及び仕様を超えた使用・改造等本書に従わなかった事に起因する故障・事故に関しては保証の対象外となります。
- 6) この製品の補修用部品の供給年限(期間)は、製造打ち切り後9年と致します。但し、供給年限内であっても、特殊部品につきましては納期等についてご相談させていただく場合もあります。
- 7) ご不明な点及びサービス等関するご質問は、販売店までご相談ください。その際は下記の箇所を参考に『商品型式と製造番号・搭載エンジンの型式名（エンジン本体に刻印または貼付されています。）』を確認し、併せてご連絡ください。



本機「製造番号」貼付け位置

種類 Description	芝刈機(歩行型)
型式名 Model	GRH537
製造番号 Serial No.	0000000000
発売元	(株)オーレック
株式会社 オーレック OREC CO., LTD.	MADE IN JAPAN FABRIQUE AU JAPON

1. ご使用の前に〈安全にお使いいただく為に、必ずお読みください〉

1.1 作業条件



警告

- 1) 本書の内容を理解できない人は使用しないでください。
- 2) 所有者以外の方は使用しないことが原則です。やむを得ず機械を他人に貸すときには、取扱い方法を説明し、本機とエンジン(該当製品)の「取扱説明書」をそれぞれ熟読し、取扱い方法や安全のポイントを十分理解してから作業をするように指導してください。
- 3) 過労、病気、薬物、その他の影響により正常な運転操作が出来ない時には作業しないでください。
- 4) 酒気を帯びた人、妊婦、子ども(中学生以下)、未熟練者にも作業をさせないでください。
- 5) 機械の回転部に巻き込まれたりしないよう、作業衣は長袖の上着に裾を絞った長ズボンを着用し、適切な服装で行ってください。くわエタバコ、巻き(腰)タオルは厳禁です。
- 6) 製品に応じて、滑り止め(スパイク)のついた安全靴(長靴)やヘルメット(帽子)、防護眼鏡、手袋、スネ当て等の適切な装備を使用してください。

1.2 作業をする前に

1.2.1 作業前の注意事項



危険

排気ガスにより一酸化炭素中毒の恐れがあります。屋内など換気が不十分な所では、運転や作業はしないでください。



警告

- 1) 安全作業の障害となるような本機の改造は絶対にしないでください。
(カバーの切断、標準品以外の装着、指定外のオイルの使用、安全装置の取外し等)
〈これらの改造に起因する事故、及び不具合に関しては、一切の責任を負いかねます。〉
- 2) 周囲に人や動物、車両や設備、建造物等の有形資産がない事を確認してください。また、周囲の安全を確認して、圃場内の障害物、側溝、軟弱な路肩など危険な場所や注意が必要な場所には目印などを設けて近寄らないでください。
- 3) 石やその他の異物は事前に取除き、除去不能な障害物などがある場合には、注意標識又は作業禁止範囲を示す安全柵などを設けた後で作業を始めてください。また、このような圃場では安全のために通常よりも高刈りで作業を行ってください。ナイフが欠けたり、石等の異物が飛散し危険です。
- 4) 転落防止のため、川や崖や段差(路肩)を走行する場合は、路肩崩れや転落の危険性を考慮し、十分に安全な平坦地を走行してください。
- 5) 暗い時、視界が悪い時の使用は危険です。周囲の状況が十分に把握できない時には使用しないでください。



注意

- 1) 雨天時や水たまり等本機が大量の水を浴びるような条件での使用は避けてください。
- 2) その他気象条件等に留意し、作業実施の判断や装備の選択に十分配慮してください。

1.2.2 作業前の点検・確認



警告

- 1) 前回の作業終了後に確認された要修理箇所等について、確実に修理が行われている事を作業開始前に必ず確認し、修理が完了するまでは絶対に作業を開始しないでください。
- 2) 安全のためのカバー類はもとより、標準に装備されている安全装置及び関連部品を外したままの運転は非常に危険です。事故防止のため、これらの部品は必ず装着した状態で使用してください。もし異常がある場合は修理を行い、正常な状態を確認してから作業をしてください。
- 3) 作業クラッチ（ナイフクラッチ等）が「切」位置の時、ナイフが確実に止まっているか点検し、もし少しでも動いている場合にはエンジンを止め、ワイヤを調整してください。
- 4) ナイフの脱落は危険です。ナイフのセットボルト・ナットをしっかり締めてください。また、古いものは新しいものに取り換えてください。
- 5) ナイフ交換のための開閉カバーがあるものは、開いたままの使用は危険です。必ず閉めた状態で使用してください。
- 6) エンジンの冷却風の吸込口、シリンダ付近の草詰まり、特に高温となる排気管周辺や本機に堆積した草屑等は作業前に必ず取り除いてください。エンジンの焼付きや火災の原因となります。また、外側のみならず、エアクリーナ内部、H S Tファンカバー（該当製品）など内側に堆積した草屑等の清掃も同時に行ってください。

1.2.3 火気厳禁・燃料の給油



危険

- 1) **作業中及び給油中は火気厳禁です。**引火や火傷の危険があります。くわえタバコ、焚き火等、裸火の使用等は、機械のそばで絶対行わないでください。
- 2) 給油はエンジン停止後、マフラの温度が十分下がってから行ってください。
- 3) 給油は油面上限マークがあるものは、マーク以下(傾斜地使用の場合には更に少なく)にしてください。多く入れ過ぎた時はマーク以下になるまで抜き取ってください。また、こぼれた燃料は必ず拭き取ってください。
- 4) 身体に静電気が帯電した状態では行わないでください。気化したガソリンにより引火の可能性があり、火傷、火災につながる恐れがあります。

1.3 作業中は

1.3.1 作業中の注意事項



- 1) 安全のため、余裕を持った運転を心掛け、急発進・急停止・急旋回はしないでください。
- 2) 無理な姿勢で作業を行わず、体調に合わせ1～2時間程度で休息を取るようになしてください。
- 3) 作業範囲内（半径10m以内）に人(特に子供)やペットが入り込まないように、草刈り作業中である旨の立て札やガードロープを張るなどし、半径10m以内に近づけないでください。人やペットが近づいた時には直ちに作業を中断し、エンジンを停止してください。
- 4) 運転中、周囲に燃えやすい物や危険物を置かないでください。また排気マフラは高温となります。本機操作時・作業終了直後等に手をかけると、火傷を負う恐れがあります。
- 5) 斜面での作業は、勾配が10°以下でご使用ください。上下方向よりも横方向（等高線方向）に行うようになしてください。上下方向の作業は、本機が滑り落ちてくる、作業者の足が滑って本機に巻き込まれる等の恐れがあります。
- 6) 滑り止めなどの注意を十分行って、それでも滑りやすい場所では作業を行わないでください。

1.3.2 操作上の注意事項



- 1) 始動時は走行(主)クラッチ、作業(ナイフ・ロータリー)クラッチを「切」位置にし、中立のあるものは変速レバーを「中立」位置にして、ブレーキがあるものはブレーキを掛けてから始動してください。
- 2) 斜面での旋回等の操作は十分に注意してください。 バランスを崩し、転倒してけがをする恐れがあります。
- 3) 斜面では、安全のため、変速レバー・クラッチレバー類の不要な操作は行わないでください。 スリップ・転落・滑落等の危険があります。
- 4) バックする時は、人(特に子ども)・動物・障害物がない事を確認して機械との間に挟まれたり、崖や段差からの転落等がない様足場に注意してください。 (該当製品)
- 5) 木の周りや壁際などの作業時は、ハウスの支柱や木の枝、鉄線等と本機との間に体や手を挟んだり、枝での打撲・挟まれに十分注意して作業を行ってください。
- 6) 旋回時は特に足元に注意し、作業部(ナイフ・爪など)、走行部(タイヤ・クローラー等)に巻き込まれないようになしてください。
- 7) 刈取方向を切り替える時には、その前後方向の安全性を確認した後に行ってください。
- 8) 作業(ナイフ・ロータリー)クラッチは、人(子ども含む)や動物がいない事を確認し、安全に十分注意した後に操作してください。
- 9) 刈取った草は本機右側から後方へ排出されますので、刈取るべき草に対して本製品を常に右側に位置させてください。 (回り刈の場合は常に左回りで刈取ります。)

1.3.3 作業中の点検・停止・清掃



警告

- 1) 作業中、異物と衝突（噛み込み）した時は直ちに作業（草刈・耕運など）を止め、エンジンを停止してください。そして、必ずナイフ・ナイフステー・爪類（該当製品）及びカバー類の欠けや曲がりの有無を調べ、必要に応じ修正・交換ください。



注意

- 1) 作業中に点検する際は、必ずエンジンを停止し、各部が冷えてから、手を保護するために皮手袋などの丈夫な手袋をして実施ください。
- 2) 本機より離れる時は、必ずエンジンを止めてください。また、安定した平坦地で確実に停車してください。
- 3) エンジンを止める際は、該当する製品については次の事を行ってください。
①ブレーキをかける。②キーを抜く。③燃料コックを閉める。
- 4) 運転中の異常な音、匂い、発熱は火災の原因となる恐れがある為、直ちにエンジンを停止し、点検・修理してください。
- 5) その他作業中、異常を感じたら必ずエンジンを停止してから、点検を行ってください。
- 6) 冷却風の吸込口、シリンダ付近の草詰まり、特に高温となる排気管周辺に堆積した草屑等は注意深く取り除いてください。エンジンの焼付きや火災の原因となります。
また、外側のみならず、内側もこまめに清掃してください。また、エアクリーナ内部の清掃、H S Tファンカバー（該当製品）に堆積した草屑の清掃も同時に行ってください。

1.4 積み降ろし及び運搬時の注意



危険

- 1) 本機を運搬する時は必ずエンジンを停止し、燃料コックを「閉」状態にしてください。燃料漏れにより、こぼれた燃料が引火する恐れがあります。
- 2) 必要以上に本機を傾けないでください。燃料が漏れ出す恐れがあります。



- 1) 運搬用の車は製品に応じた車を使用してください。(積載重量、荷台のサイズ、干渉の有無)
- 2) 運搬用の車は平坦で安全な場所を選び、搭載時に動き出さない様にエンジンを止め、サイドブレーキを引き、車輪止めをしてください。
- 3) ナイフ・爪がブリッジと接触しない位置まで高さを調整してください。また、該当する機種は次の事を行ってください。①作業クラッチは「切」位置。②デフロックを「入」位置
- 4) 基準にあった丈夫なブリッジをゆるい勾配（15度以下）で確実にかけ、エンジン回転を下げ、積み込みは「前進」で、低速でゆっくり行ってください。
〈その際、速度や方向を変える操作は危険ですので、行わないでください。〉
- 5) 本機がブリッジとトラックの荷台との境を越える時には、急に重心の位置が変わりますので、十分に注意してください。
- 6) 運搬時は丈夫なロープ等で確実に固定してください。また、安全運転を心掛けてください。

1.5 点検・整備

◎ 品質及び性能維持のためには定期点検が不可欠です。

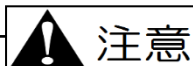
始業前点検・月次点検は所有者ご自身で、年次点検は販売店(有料)へご依頼ください。

〈定期点検を怠ったことによる事故・故障については責任を負いかねますのでご注意ください。〉



下記に記載の内容を守らないと火傷や傷害事故、機械故障の原因となります。

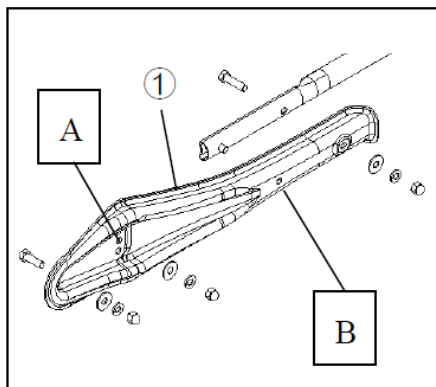
- 1) ご使用前後に、日常の点検、整備を行う他、定期的に点検、整備を行って常に製品を安全で快適な状態に保つようにしてください。
- 2) 点検、調整、整備はエンジンを停止し、マフラー部やその他ミッションケースの過熱部位が完全に冷えてから皮手袋などの丈夫な手袋を着用し、適正な工具を正しく使用して行ってください。
- 3) 点検、調整、整備は地面が平坦で硬く、広くて明るい場所で実施し、常に機体のバランスに留意し、転倒させない様に十分注意してください。
- 4) 本機を吊り上げて点検する場合には、必ず落下防止を行ってください。
- 5) 作業部（ナイフ・爪）や走行部（タイヤ・クローラー）の交換や着脱を行った場合は、指定の場所に確実に装着されているか、しっかりと締め付けしているか確認してください。
- 6) 作業部（ナイフ・爪）や走行部（タイヤ・クローラー）を新品に交換する際には安全のため取付けボルト類も一緒にメーカー純正品の新品と交換してください。
- 7) ナイフ部の安全カバー、及び飛散防止用のカバーの破損は危険です。作業中に異常を感じた箇所はそのままにせず、必ず作業を中断して点検、また作業終了後に再度点検し、必要な修理をしておいてください。
- 8) 取外したカバー類は、必ず元の位置に正しく取り付けてください。
- 9) 指定外のアタッチメント取付けや、改造は絶対にしないでください。
- 10) 燃料パイプは古くなると、燃料漏れの原因となり危険です。2年毎、または傷んだ時には締め付けバンドとともに新品と交換してください

**注意**

下記に記載の内容を守らないと機械故障の原因となります。

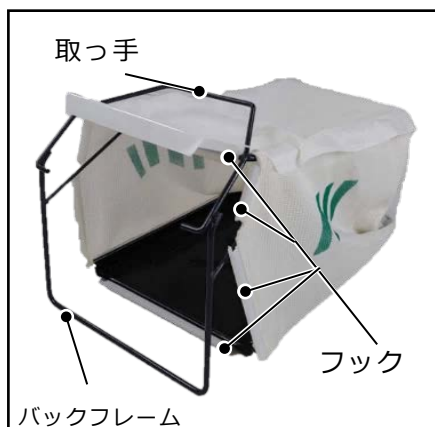
- 1) 本機を洗車する場合は、エンジン部（電装部、エアクリーナ付近、燃料キャップなど）及び警告ラベル貼付け箇所に水をかけないでください。
- 2) クラッチ類、スロットル、ギアチェンジ等の点検、調整は十分に行ってください。
- 3) シートをかける場合には火傷や火災を防ぐため、エンジンの停止後「約 5 分以上」待って、マフラやエンジン本体の冷却状態を十分確認した上で行ってください。

1.6 開梱後の組立について



ハンドルの組立て

- 1) ①のハンドル取付板を本体に取り付けます。
 - ・ 本体内側から六角ボルト M8×25 を取付け、座金・バネ座金・袋ナットで固定します。
- 2) ハンドル取付にハンドルを取付けます。
 - ・ ハンドル先端のピンを B に差込み、角根ボルト M8×35 を内側より通し、座金・バネ座金・袋ナットで固定します。
 - ・ A の穴の位置で、ハンドルの高さを調整してください。



収草バックの組立て

- 1) 収草バックの中にバックフレームを入れてください。
- 2) 収草バックのフックをバックフレームに掛けてください

参考；

フックを掛けるときには、フレームの取っ手をバックの上に出してください。

1.7 保管時

**警告**

- 1) 安全のため、燃料コックは必ず閉めてください。
- 2) 本機を長期保管する場合は屋内で保管ください。〈5.5 長期保管のしかた 参照〉
- 3) 本体や作業部に付いたごみや付着物・異物は取り除いてください。

1.8 警告表示マーク



- 警告表示マークは本項目内における重要危険事項の中からとくに重要なものとして厳選され、本体に貼付されています。ご使用前に必ずお読み頂き、十分理解して必ず守ってください。
- ※警告表示マークが見えにくくなった場合には、必ず同じものを販売店で購入、貼り換える等して常にはっきり識別できるようにしてください。〈6.3 消耗品明細 参照〉

警告表示マーク貼付箇所



注意 	安全のため、取扱説明書をよく読み、内容を十分理解して使用する。 ●異物吸込に注意 ●保護具着用を推奨 刃刃を点検整備するときは、プラグキャップを取り外す	警告 	事故防止のため、このカバーを開ける時はエンジンを停止する。 ●消耗品の交換時は純正品を指定する。 刃刃のセットボルト・ナットを締め、古いものは交換。 必ず防護眼鏡を使用。	異物吸込に注意し周辺の石などは取り除く。 積み降ろし時、転落注意 (15°以下)。 異物吸込に注意し人や家、建物から離れて作業する。	傾斜地や崖での停止、転落注意 (10°以下)。 0270-74200
---------------	---	---------------	--	--	---------------------------------------

GR 警告ラベル 0270-74200



ナイフ警告ラベル 0334-71800



ナイフ警告ラベル 0334-71800

2. 各部の名称とはたらき

2.1 各部の名称



2.2 各部のはたらき

① 走行レバー

エンジンからミッションへの動力を断続させます。レバーを前へ倒しハンドル一緒に握ると「入」位置の状態、離すと「切」位置の状態になるデッドマン式クラッチレバーを採用しています。



注意

走行レバーを「入」位置にする時には変速レバーを 0 速（操作者側）の状態にしておいてください。また、走行レバーを離して「切」位置の状態にしたら変速レバーを 0 速（操作者側）の状態に戻してください。

② ナイフレバー

エンジンからナイフへの動力を断続させます。2 モーションレバーを前に倒し、ナイフレバーを手元に倒してハンドルと一緒に握ると「入」の状態になります。2 モーション式デッドマンクラッチを採用しているため、離すと「切」位置の状態になります。

* 2 モーションレバーを操作せずにナイフレバーを握ってもナイフは作動しません。



注意

安全の為、エンジン始動時は必ずナイフレバーを「切」位置にしてください。

③ 変速レバー

走行速度の選択時に操作します。変速は前進のみで 0～7 速の 8 段階です。

6～7 速（最高速）は移動用です。刈取作業を行うときは状態に合わせて 1～5 速で行ってください。

④ 前輪・後輪 刈高調整レバー

刈高さの調整を行います。調整は 6 段あります。

低刈する時には前後共にエンジン寄りの位置へ、高刈する時は逆にエンジンより外向きの位置にあわせてください。

⑤ スロットルレバー

エンジンの始動、停止、回転数の増減を調整します。

2.3 方向について

本機の前後左右は、下図のように作業員から見た方向で表します。

本文中の、「前進」・「後進」についても、作業員から見た方向で表します。



3. 作業前の点検

- 作業を始める前に「1.2 作業をする前に」を確認し、下記の「始業前点検表」及び「7.1 定期点検表」に従って始業前点検を必ず行ってください。

※不明な点や異常な点があれば、必ずお買い上げいただいた販売店にご相談ください。

始業前点検表（定期点検表からの要約）		
	項目	点検内容
エンジン	①エンジンオイル	「オイル量、汚れ」を確認（3.1 参照）
	②エアクリーナー	「汚れ」を確認、清掃（5.2.1 参照）
	③エンジン本体	「緩み」「亀裂」の確認
	④マフラ周り	「ごみ等の詰まり」の確認、清掃
	⑤燃料チューブ、燃料フィルタ	「燃料漏れ」「劣化」「変形」「目詰まり」の確認、清掃
本機	①ナイフ（爪）	〈5.点検・整備 参照〉
	②ブレーキ(該当製品)	「1」ボルトナットのゆるみ、脱落
	③タイヤ(クローラー)	「2」変形、磨耗、干渉
	④レバー類	「3」スムーズに動くか、固着
	⑤カバー類	「4」ごみ、草、わら等の異物を取り除く
	⑥HST オイル(該当製品)	「オイル量、汚れ」を確認

警告

- 1)点検、給油、調整、整備は必ずエンジンを停止してから行ってください。
- 2)エンジンを始動し、走行レバー等の動作確認を実施する場合は、各レバー位置と周囲の安全を確認してから行ってください。
- 3)本機に貼られている警告表示マークも良く読んでください。

3.1 エンジンオイルの点検

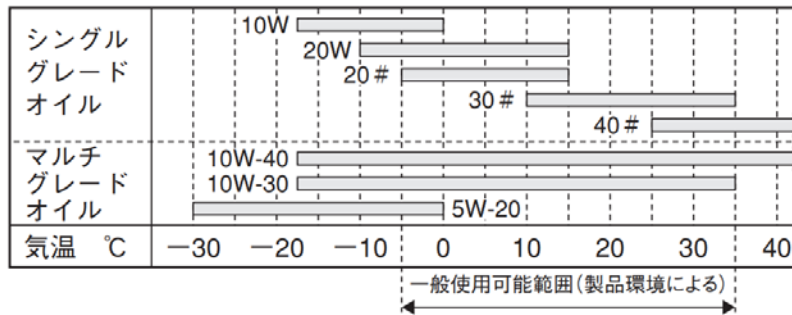


- ①本機を水平にしてオイルゲージを外します。
- ②給油口にねじ込まずに差し込んで、オイルゲージの上限と下限の間にオイルがあることを確認してください。
(給油栓がオイルゲージを兼用しています。)
- ③少ない場合は上限近くまでオイルが来るように補給してください。注油するオイルの量はゲージを参考にしてください。

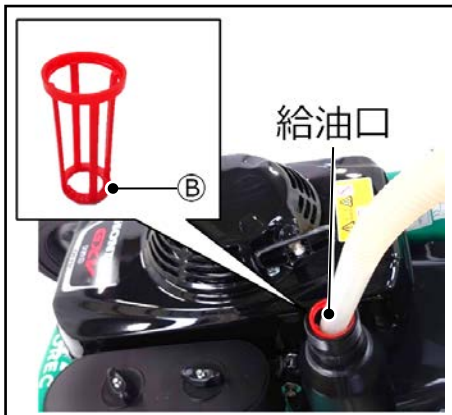
注意

- 1)エンジンオイルの点検をエンジン運転後に行う場合は、エンジンの停止後「約 5 分以上」待って、マフラやエンジン本体の冷却状態を十分確認した上で行ってください。
- 2) 本機には新品時 エンジンオイルが入っていません。
※エンジン始動前には必ずエンジンオイルを注油してください。
- 3)エンジンオイルは SE 級以上の良質で新しいオイルを使用し、気温によって使い分けてください。
- 4)補給後、オイルゲージは確実に締め付けてください。締め付けが緩いとエンジンオイルが漏れ出す恐れがあります。

「推奨オイル」



3.2 燃料の点検・給油



①本機を水平にして燃料給油キャップを外し、給油口から燃料の量を点検します。

②少ない場合は左図を参照に⑧を給油限度として給油口から、こぼれない様に燃料を補給してください。

〈使用燃料：無鉛レギュラーガソリン〉

〈燃料タンク容量：6.1 仕様参照〉

③補給後は燃料給油キャップを確実に締付けてください。

※傾斜地での使用は、⑧よりさらに少なく(こぼれない量に)してください。

危険
1) 作業中及び給油中は火気厳禁です。

引火や火傷の危険があります。くわえタバコ、焚き火等、裸火の使用等は、機械のそばで絶対に行わないでください。

2) 給油はエンジン停止後、マフラの温度が十分下がってから行ってください。

3) 給油は油面上限マークあるものは、マーク以下(傾斜地使用の場合には更に少なく)にしてください。多く入れ過ぎた時はマーク以下になるまで抜き取ってください。また、こぼれた燃料は必ず拭き取ってください。

4) 身体に静電気が帯電した状態では行わないでください。気化したガソリンにより引火の可能性があり、火傷、火災につながる恐れがあります。

警告

平坦な安定した、換気の良い場所で行ってください。

注意

1)燃料を補給する場合は、ほこり・草・雨・雪などの異物が燃料タンク内に入らないようにしてください。エンジン不調の原因になる恐れがあります。

2)無鉛レギュラーガソリン以外は使用しないでください。エンジンに損傷を与える原因になります。

3)ガソリンは自然劣化します。一ヶ月以上使用しない場合は新しいガソリンと入れ替えてください。またポリタンクに保管したガソリンも使用しないでください。不調の原因となることがあります。

4. 運転・作業のしかた



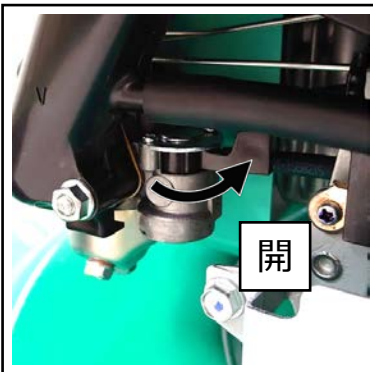
警告

※「1. 使用上の注意」を運転する前に、必ずお読みください。

特に、「1.1 作業条件」「1.2 作業をする前に」「1.3 作業中は」をよく読み、理解したうえで運転・作業を行ってください。

4.1 エンジンの始動・停止のしかた

4.1.1 エンジン始動のしかた



① 燃料コックを「開」位置にしてください。

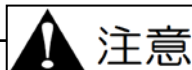


② スロットルレバーを『  』位置にしてください。

参考；エンジンが暖まっている時は、『  （高速）』で始動できます。



③ ナイフカバーに片足をのせて、本体が動かないようにしっかり押え付け、リコイルグリップをゆっくり引いて、圧縮を感じる位置から一旦戻した後、勢いよく引っ張ってください。



注意

リコイルグリップを引く時に、後方に人や障害物がない事を確認してください。

エンジンの始動後は、リコイルグリップは元の位置にゆっくりと戻してください。

④ エンジン始動後は、スロットルレバーを『  （低速）』位置でしばらく（3 分程度）の暖機運転を行ってください。暖機運転を行なうことにより、エンジンの各部にオイルを行き渡らせ、エンジンの寿命を延ばします。

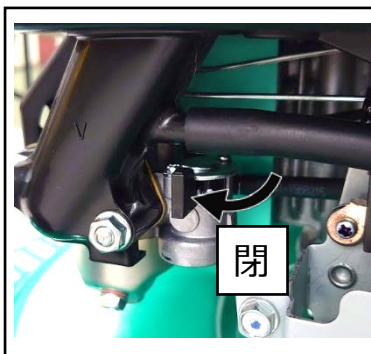


- 1)新製品購入後、最初の一週間(3～4 時間)は、慣らし運転期間として、過負荷をかけない様に控えめな運転を心がけてください。
- 2)チョークレバーを「全閉」位置のまま使用すると、エンジン各部に悪影響を与え、エンジンの寿命を短くしますのでご注意ください。

4.1.2 エンジン停止のしかた



- ① スロットルレバーを「停止(S T O P)」位置にしてエンジンを停止してください。



- ②最後に燃料コックを「閉(OFF)」位置にしてください。

4.2 走行・変速・旋回・停止のしかた

4.2.1 走行・変速のしかた



- ①エンジンを始動させてください。
〈4.1.1 エンジン始動のしかた 参照〉
- ②走行レバーを前に倒し、ハンドルと一緒に握ってください。

4. 運転・作業のしかた



③変速レバーを 1 速に変速すると走行を開始します。

④変速レバーを矢印のように操作して変速してください。

⚠ 警告

- 1) 安全のため、走行の際には刈高さ調整レバーを一番高い位置にし、石やその他の障害物にナイフが接触しないように注意してください。
- 2) 走行、旋回の際にはナイフレバーは「入」位置にしないでください。巻込まれ危険です。

⚠ 注意

- 1) 走行レバーを半分握っていると、半クラッチ状態になりクラッチの磨耗が早くなりますので、ハンドルと一緒にすばやく握ってください。
- 2) 走行レバーを「入」位置にする時には変速レバーを 0 速（操作者側）の状態にしておいてください。また、走行レバーを離して「切」位置の状態した後は変速レバーを 0 速（操作者側）の状態に戻してください。

4.2.2 旋回のしかた



① ハンドルを押し下げ、前輪を浮かせるようにします。

② 旋回方向へ振りながら行ってください。

4.2.3 停止のしかた



① 走行レバーから手を離し、本機を停止してください。



②スロットルレバーを「停止(OFF)」位置にし、エンジンを停止してください。

〈4.1.2 エンジン停止のしかた 参照〉

注意

- 1) 本機は平坦で、周辺に障害となる物がない広い場所に駐車してください。
- 2) 本機を離れるときには、必ずエンジンを停止してください。
- 3) エンジンを停止したまま軽く押して移動ができます。(走行レバー「切」位置)

4.3 上手な作業のしかた

警告

- 1)安全のため、標準で装着されているカバー・フラップ類は必ず装着したまま作業を行ってください。取り外したままの作業は大変危険です。石等異物が刈取部全周にわたり飛散し、作業者を始め周囲に被害を及ぼす危険があります。
- 2)ガイド車輪の調整及びナイフにからみ付いた草や針金その他の異物を取り除く際には、必ずエンジンを停止してから行ってください。
- 3)本機装着のカバー類は、刈取部からの異物の飛散を最小限に抑える様設計されていますが、これを完全に防止するものではありません。作業前の圃場内異物(切株、石、針金、空缶、棒切れ)等の除去は、作業者の責任で確実に実施してください。

注意

- 1)作業衣は、長袖の上着に裾を絞った長ズボンを着用し、スパイク靴や帽子またはヘルメット、すなわち、防護メガネ(製品付属)等を常に着用してください。
- 2)切株、石、針金、空缶、棒切れ等の異物は作業前に出来る限り取り除いてください。
- 3)石等異物の多い圃場での作業については、これらの飛散による被害を防止するため高刈りをする等して、安全には十分注意してください。
- 4)刈取部全周にわたり、石等の異物が飛散する恐れがあります。人や車、建物から離れて十分ご注意の上作業してください。
- 5)本機運転中のエンジンマフラは高温になり、誤って触ったりすると火傷の危険があります。運転中及び運転停止後約 10 分の間マフラには絶対に触らないでください。
- 6)作業は必ず前進で行ってください。後進での作業は危険です。

参考；

初めて本機を使用するときは石等の異物のない平坦地で操作方法等を十分に習得してください。
刈り取り跡が少し重複するようにして往復すると刈残しが無く、きれいに仕上がります。傾斜地での草刈は、平坦地で十分に練習した後にしてください。

4.3.1 草刈作業のしかた



- ① 作業状況に合わせて、刈高調整レバーで刈高さを調整してください。

参考；刈高さの調節

刈高さ調整レバーにより6段階調整ができます。伸びた芝を刈り取る時には、最初刈取り高さを高くして刈取り、次に刈り取りたい高さまで下げて刈り取ってください。図の矢印方向に動かすと刈高さは低くなります。

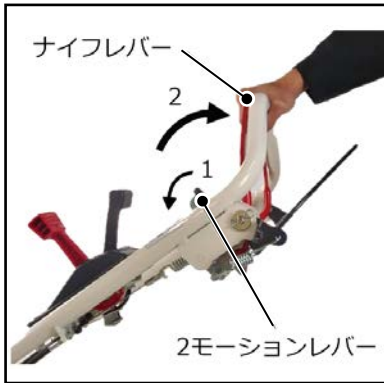


- ② エンジンを始動させてください。

〈4.1.1 エンジン始動のしかた参照〉

- ③ スロットルレバーを『 (高速)』位置にしてください。

4. 運転・作業のしかた

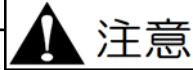


④ 1.2 モーヨンレバーを前に倒してください

2. ナイレバーを倒してください

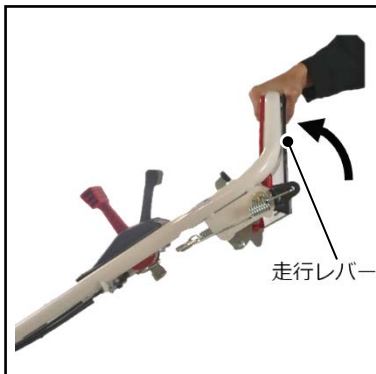
以上の手順でハンドルと一緒に握るとナイフが回りだします。

〈2.2 各部のはたらき参照〉



注意

ナイフレバーを半分握っていると、半クラッチ状態になりクラッチの摩耗が早くなります。ハンドルと一緒にすばやく握ってください。



⑤ 走行レバーを前に倒すと本機が動き出し、刈り取り作業を行います。

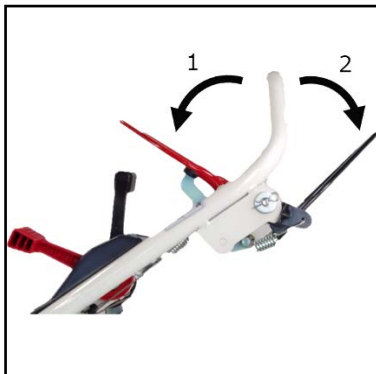


注意

走行レバーを「入」位置にする時には変速レバーを0 速（操作者側）の状態にしておいてください。また、走行レバーを離して「切」位置の状態した後は変速レバーを0 速（操作者側）の状態に戻してください。



⑥ 変速レバーを矢印のように動かして所要の速度に変速してください。6～7 速（最高速）は移動用です。刈取作業を行うときは芝の状態に合わせて1～5 速で行ってください。



⑦ 作業を終了する場合には、ナイフレバー、走行レバーの順に手を離して本機を停止させてください。

⑧ エンジンを停止してください。

〈4.1.2 エンジン停止のしかた参照〉



警告

- 1)安全のため、最初は「①」位置からスタートし、周囲の安全を確かめた上で作業条件に合った作業速度にしてください。
- 2)ナイフの回転中は全カッターユニット内側いっぱいまでナイフがききますので、絶対に草等をカッターユニット内に足で蹴り入れない様にしてください。大けがの原因となります。
- 3)エンジンに堆積した草屑等は常に清掃してください。冷却不足によるエンジン焼付きや火災の原因となり危険です。（※清掃は必ずエンジン停止後とする事。）



注意

- 1)作業中、エンジンに負荷がかかり頻繁にエンストしそうな場合(過負荷状態)には、まずナイフレバーから手を外してください。次に作業速度を遅く変更し作業を再開してください。
- 2)エンジンの回転が上昇しない場合には、ナイフに草が絡まっている又は草の量が多過ぎる可能性があります。必ずエンジンを停止した後ナイフに絡まった草屑をきれいに除去し、刈高さを一段高くしてください。
- 3)過負荷状態のまま無理に作業を続けると、本機のＢＢＣクラッチが焼け、故障の原因となるばかりでなく、思わぬ事故の原因となります。

参考；

- 1)草の量が多く、頻繁にエンジンがストップするようであれば作業速度を一段落とすか、刈高さを一段あげるか、二回刈りをしてください。

4.3.2 収草バックの取付・取外し



- ①取付時は収草バックの取っ手部分を握り、収草バックのフックをロータリーデッキくぼみに引っ掛けてください。
- ②取外し時は取っ手部分を握り、収草バック後を上を持ち上げて収草バックのフックをくぼみから外してください。



警告

収草バックの取付け・取外しを行うときは、必ずエンジンを停止してください。
物が飛び出し、ケガをすることがあります。

参考；

- 1) 収草バックは、取外しの都度きれいに清掃してください。
- 2) 収草バックを取外したときは、必ず排出カバーを閉じてください。
- 3) バック内の草を一杯になる前に捨てることで機械に負担をかけることなく作業ができます。

4.4 積み降ろし及び運搬



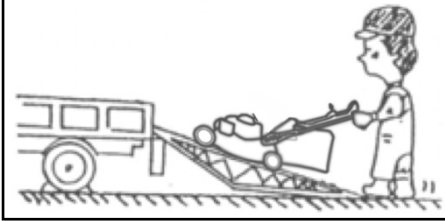
- 1) 本機を運搬する時は必ずエンジンを停止し、燃料コックを「閉」状態にしてください。燃料漏れにより、こぼれた燃料が引火する恐れがあります。
- 2) また、必要以上に本機を傾けないでください。燃料が漏れ出す恐れがあります。



- 1) 運搬用の車は製品に応じた車を使用してください。(積載重量、荷台のサイズ、干渉の有無)
- 2) 運搬用の車は平坦で安全な場所を選び、搭載時に動き出さない様にエンジンを止め、サイドブレーキを引き、車輪止めをしてください。
- 3) ナイフ・爪がブリッジと接触しない位置まで高さを調整してください。また、該当する機種は次の事を行ってください。①作業クラッチは「切」位置。②デフロックを「入」位置
- 4) 基準にあった丈夫なブリッジをゆるい勾配（15度以下）で確実にかけ、エンジン回転を下げ、積み込みは「前進」で、降ろす時には「後進」で低速でゆっくり行ってください。
〈その際、速度や方向を変える操作は危険ですので、行わないでください。〉
- 5) 本機がブリッジとトラックの荷台との境を越える時には、急に重心の位置が変わりますので、十分に注意してください。
- 6) 運搬時は丈夫なロープ等で確実に固定してください。また、安全運転を心掛けてください。

4.4.1 積み降ろしのしかた

- ・ 走行クラッチレバーは「入」位置
- ・ ナイフクラッチレバーは「切」位置



- ①周囲に危険物のない、平坦な場所を選んでください。
- ②基準にあったブリッジをゆるい勾配（15度以下）で、また製品に合わせた幅で、確実にかけてください。
- ③スロットルレバーを『  （低速）』位置にしてください
- ④積み込みは前進で、降ろす時は後から降ろしてください。
安全のため、その他の位置には入れないでください。



注意

本機を後から降ろす場合は、本機が勢いよく降りてこないように力を加えながら、安全に注意しゆっくり降ろしてください。

参考：ブリッジ基準

ブリッジは基準にあった、十分な強度のあるものを使用してください。

- 長さ…トラック荷台の高さの3.5倍以上あるもの。
- 幅 …本機の車輪幅にあったもの。
- 強度…本機重量、及び作業者の体重の総和に十分たえるもの。
- スリップしないように表面処理が施してあるもの。

5. 点検・整備・調整

5.1 オイルの点検・交換・注油



注意

- 1) 出荷時、本機にオイルは注油されておりません。初めて本機をご使用になる前には、必ず指定の箇所に指定のオイルを指定の量だけ確実に注油してください。
- 2) 定期的なオイル交換は、本機を常に最良の状態を使用するために是非必要です。
- 3) 注油は少しずつおこなってください。一度に注油しようとすると、エアが抜けずに注油口よりすぐにオイルが溢れ出ます。注油口まで油面がきていることを確認してください。
- 4) 各部オイルの点検・交換・注油をする場合には、必ず本機を平坦な広い場所に置いてエンジンを暖機運転した後に停止し、本機各部が触っても熱くない程度に冷えるのを「約 10 分以上」待ってから作業を行ってください。

… エンジン停止後、すぐに作業を行うと …

* エンジン本体はかなりの高温になっており、火傷の危険があります。

* エンジン停止直後は各部にオイルがまだ残っており、正確なオイル量が示されません。

■ 交換後の排油は、お住まいの地方公共団体の取り決めに従い適切に処理をしてください ■

5.1.1 ミッションオイルの排油と給油

◎ 排油…

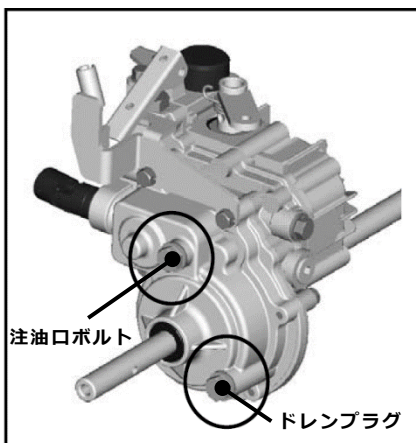
- ① オイルを受ける適当な容器を用意します。
- ② ミッションケース下側のドレンプラグ(排油、兼注油口)を取り外しオイルを抜き取ります。
- ③ ドレンプラグを確実に取り付けてください。

◎ 給油… 注油量を厳守ください。

- ① ミッションケース上側の注油口ボルトを外してください。
- ② 注油口から 0.17 リットルのミッションオイル(#90)を注油してください。
- ③ 注油後はドレンプラグを確実に取り付けてください。

参考;

- ・ 注油はオイル差し(オイラー)で行うと正確に注油ができます。
- ・ 取り外したドレンプラグは元通りに締め付けておいてください。



交換の目安

初回：20 時間目、2 回目以降：100 時間毎

**注意**

高負荷又は高温下で連続長時間使用する場合には、上記目安より早めの交換(約半分の時間)でミッションオイルを交換してください。

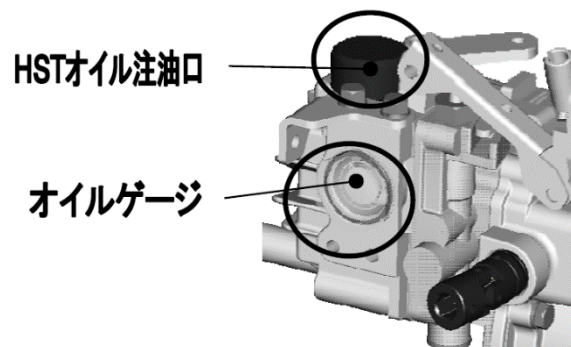
5.1.2 HST オイルの排油・給油

参考；

HST オイルは油圧作動油とも呼ばれ、エンジンの回転を駆動に変える重要な役割を担っています。他に潤滑、防錆、冷却等の作用もありますが、その管理が行き届かないと走行系のトラブル等故障の原因となります。交換・補給には必ず当社指定の専用オイルをご使用ください。

**注意**

- ・ HST オイルを交換する場合には、製品お買い上げの販売店までご相談ください。
- ・ 異種のオイルを混合させないでください。HST 故障の原因となります。製品出荷時には V G 4 6 相当の耐摩耗性油圧作動油が注油されています。



◎点検と補給

HST オイルタンク内のオイル量を外観から点検し、ミッションが水平の状態において、オイルゲージの中間よりオイルの油面が下限の場合はオイル量が不足しています。

赤いオイルキャップ周りのゴミ・埃などをエアブロー等で取り除き、きれいになされた後で赤いオイルキャップを開け、HST オイルをゲージの中間まで補給してください。（わずかな水滴・ゴミの混入が故障の原因となりますので、交換は埃などのない屋内で行ってください）

◎交換

HST オイルは、最初は清浄であっても長時間運転するうちにユニット内へ汚れ等の沈殿及びオイルの劣化等が進行し、HST の円滑な作動に支障をきたすようになります。安全で快適な作業を保つためにも定期的なHST オイルの交換をしてください。又、HST オイル交換時にはユニット、オイルタンク内に劣化したオイル、スラッジ等の沈殿物、水分等が混入しています。単に新しいHST オイルと交換するのではなく、事前に必ず数回これらのフラッシング(洗油で内部を洗浄する事)を行ってください。

●…初回：30 使用時間 ●…以降：年 1 回もしくは 200 使用時間 每どちらか短いほう

■ H S T 指定オイル

油種	会社名	三 菱	日 石	昭和シェル	コスモ	J O M O	エッソ	モービル
耐摩耗性 油圧作動油		タ イモント ハイ トフルート E P 4 6	スーパ ーハイラント 4 6	テラスオイル K 4 6	コスモハイ ト A W 4 6	J O M O ハイ トラックス 4 6	ユニパワー S Q 4 6	モービル D T E 2 5

5.1.3 エンジンオイルの点検・交換・注油

◎ 点検



- ・給油栓についているレベルゲージで、エンジンオイルの量・質を毎運転前に点検してください。レベルゲージはねじ込まずに点検します。
- ・常にレベルゲージの上限までエンジンオイルは入れておいてください。
- ・汚れがひどい場合には交換を行ってください。

◎ 交換・注油



- ① オイルを受け取る適当な容器を用意し、オイルフィラキャップを外した後、オイルドレンボルトを工具を使って外してください。
- ② 抜き終わったら元の通りにオイルドレンボルトをしっかりと締め付けてください。
- ③ エンジンオイルを規定量まで注油してください。
〈使用するオイルの質・量は 3.1 エンジンオイルの点検 参照〉
- ④ エンジンオイル注油後、オイルがにじみ出ないように、オイルフィラキャップをしっかりと締め付けてください。



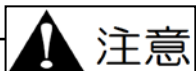
注意

但し、負荷条件の厳しい作業条件や高温環境で連続長時間使用される場合は、上記時間に達する前、早めの交換(約半分の時間)をおすすめします。

交換の目安

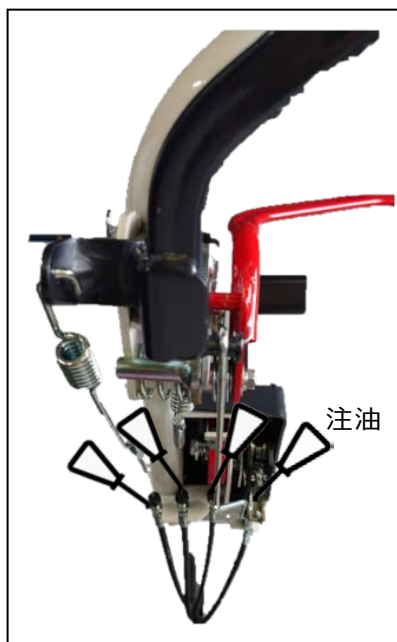
初回：5 時間目、2 回目以降：25 時間毎

5.1.4 可動部への注油

**注意**

約30時間毎にグリスを、各ワイヤ軸部には必要に応じてエンジンオイル(#30)を注油してください。特に、グリスの注油を怠ると潤滑不良により破損の原因となる恐れもあります。

各ワイヤ軸部



右刈高ガイド軸部



左刈高ガイド軸部



5.2 エンジン関連の清掃・点検・調整

5.2.1 エアクリーナーの清掃



警告

- エアクリーナ・リコイルスタータが草屑等で目詰まりを起こしたまま作業を続けると、出力不足や燃料消費が多くなるばかりでなく、排ガス温度が上昇することにより燃料への引火・火災の原因ともなり大変危険です。必ず定期的に点検し清掃してください。
…エアクリーナーを外したままエンジンを始動させないでください。…
ゴミやほこりをエンジン内部へ吸い込み、エンジン不調や異常摩耗の原因となります。



- ①蝶ナットを外してカバーを取外し、ホコリやゴミを気化器側へ入れないように注意深くエレメントを取り出してください。
- ②フォームエレメントは、中性洗剤で洗浄後よく絞り乾燥させてください。
- ③ペーパーエレメントは軽く叩くか、内部からエア吹きしてホコリやゴミを落としてください。（外側からエア吹きすると目詰まりの原因となります）
- ④ケース内部の汚れをウエス等でふき取り、元の通りに組み付けてください。



注意

- ・ペーパーエレメントの汚れがひどい場合は新品に交換してください。
- ・ペーパーエレメントを叩く時にはろ紙を傷つけないように注意してください。
- ・ろ紙をブラシ等でこすらないでください。

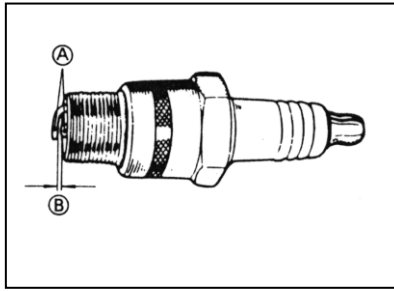
エアクリーナーの清掃、交換次期について

	清掃	交換
フォームエレメント	毎運転前	100 時間毎
ペーパーエレメント	毎運転前	100 時間毎

参考；

- 1) 洗浄時、フォームエレメントを強く引っ張ったりもんだりしないでください。エレメントが破れ使用できなくなります。
- 2) チリやホコリの多い作業環境での使用は頻繁に清掃するように心掛けてください。

5.2.2 点火プラグの点検・調整



- 1) プラグレンチで点火プラグを外し、電極部分 ④ にカーボンが付着していたらワイヤブラシでこれを除去し、湿りがあればこれを拭き取ってください。
- 2) 中央陶器部にヒビワレ、また電極部分に消耗が認められた場合には点火プラグを新品と交換してください。
- 3) 点火プラグの電極隙間 ⑥ を 0.7～0.8mm に調整してください。

参考 ;

締め付け時は、初め手で軽くねじ込んでから(ガスケットが座面に当たるまで)プラグレンチを使用してください。初めからプラグレンチで締め込むと、ネジ山を潰すことがありますので注意してください。

＜点火プラグ基準…6.1 仕様 参照＞



点火プラグの発火テストは、シリンダーのプラグ穴付近では行わないでください。
混合気に引火し、火傷を負う可能性があります。

5.2.3 燃料パイプの点検



くわえタバコや裸火での作業禁止

- 1) 燃料パイプなどのゴム製品は、使わなくても劣化します。
締め付けバンドと共に 2 年ごと、または傷んだ時には新品と交換してください。
- 2) パイプ類や締め付けバンドが緩んだり、傷んだりしていないか常に注意してください。

参考 ; パイプ類の交換時に、パイプ内にホコリやチリが入らないように注意してください。

5.2.4 燃料フィルターの清掃



くわえタバコや裸火での作業禁止

- ・ 50 時間使用ごとに燃料フィルターを清掃してください。
- ・ 清掃はホコリやチリのない清潔な場所で行ってください。

- ① 燃料タンクの中のガソリンを全て抜いてください。
- ② 燃料タンク側のホースクランプ及び燃料パイプを外してください。
- ③ 燃料タンク出口に挿入されている燃料フィルターを取り出してください。
- ④ 燃料タンク内及び燃料フィルターに付着しているゴミを清掃してください。
- ⑤ 元の通りに確実に組みつけてください。



ガソリンやシンナ等の引火性の高い洗浄油は危険ですから使用しないでください。

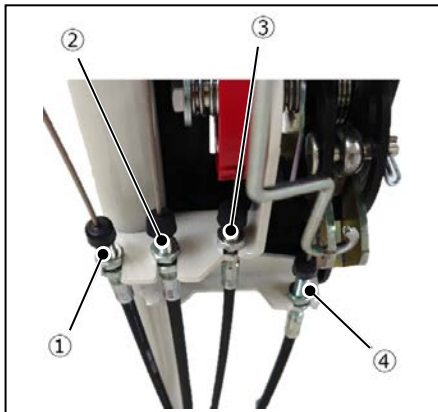
5.3 製品本機関連の点検・調整



- 1) 点検・調整は必ず本機を平坦な広い場所に置き、エンジンを停止して行ってください。
- 2) 各操作レバーが正しく作動するか確かめてください。（毎回始業時）
- 3) ワイヤは初期伸びしますので、2～3 時間運転後に再調整してください。
- 4) ワイヤは消耗品です。異常があれば新品と交換してください。
- 5) 本機を少し動かして異常音、異常発熱の有無を調べてください。
- 6) 調整後は両クラッチレバーの「入」・「切」の動作確認を必ず行ってください。
- 7) 各部のボルト・ナット類に緩み、脱落がないか確認し、確実に締め付けておいてください。
- 8) 調整のために取り外したカバー類は必ず元のとおりに取り付けてください。
- 9) 各部を十分に馴染ませる為、最初の2～3 時間は無理な作業はさけてください。
- 10) 作業後の手入れ、及び定期的な点検も忘れずに行ってください。（7.1 定期点検表 参照）
- 11) 本機全体を見回し、各部にオイルの漏れがないか点検してください
 - もしオイル漏れが確認できた場合には、お買い上げの販売店へご相談ください。
 - オイル漏れの状態で使い続けると危険なばかりか、本機の破損にもつながります。

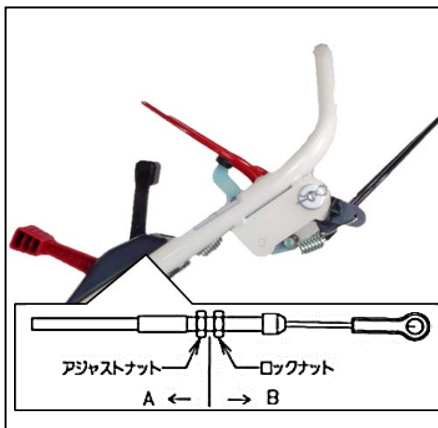
5.3.1 各部ワイヤ調整

①ワイヤの組付け位置



- ①走行クラッチワイヤ
- ②ナイフクラッチワイヤ
- ③スロットルワイヤ
- ④変速ワイヤ

②走行クラッチワイヤ



左図を参考に走行クラッチワイヤのアジャストナットで調整をしてください。

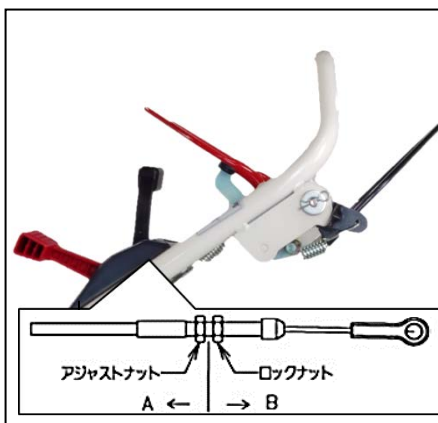
- 走行レバーを入れても負荷がかかるとクラッチが抜け本機が停止する場合。

…アジャストナットを ㊸ の方向へ…

- 走行レバーを切ってもクラッチが抜けずに本機が停止しない場合。

…アジャストナットを ㊹ の方向へ…

③ナイフクラッチワイヤ



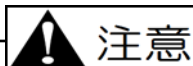
左図を参考にナイフクラッチワイヤのアジャストナットで調整をしてください。

- ナイフレバーを入れてもナイフの回転が停止する場合

…アジャストナットを ㊸ の方向へ…

- ナイフレバーを切ってもナイフの回転が止まらない、若しくは時間がかかる場合。

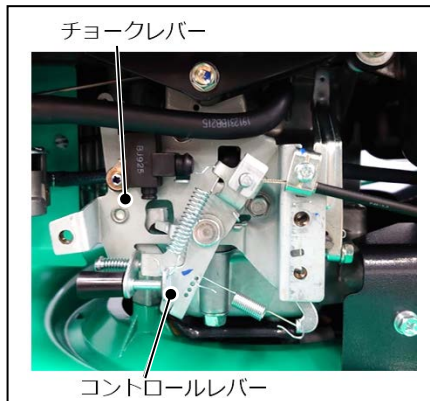
…アジャストナットを ㊹ の方向へ…



注意

半クラッチ,半ブレーキにならないようにしてください。

④スロットルワイヤ

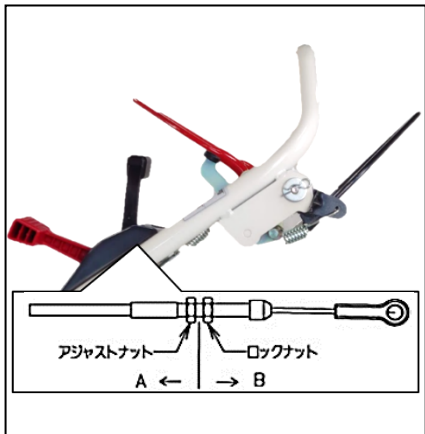


- ① スロットルレバーを『 (高速)』に合わせ、エンジンのコントロールレバーがチョークレバーに接する手前の位置になるようにハンドル側に付いているアジャストネジを調整し、ロックナットを確実に締め付けてください。
- ② エンジンを始動し、スロットルレバーを操作して、
チョーク・・・停止でエンジンが正しく作動する事を確認してください。

⑤変速ワイヤ



エンジンをかけている状態で変速レバーが 0 速の状態で行走レバーを握っても動かないように調整してください。エンジンを始動し、安全の為アイドル状態にして走行レバーを握ってください。変速レバーを 1 速にした（ひとつ動かした）とき、わずかに動き出すことを確認してください。



- 変速レバーを 1 速に入れて、走行レバーを握っても本機が走行しない場合。

…アジャストナットを ⑧ の方向へ…

- 変速レバーを 0 速に入れて、走行レバーを握っても本機が走行する場合。

…アジャストナットを ⑨ の方向へ…

 注意

各ワイヤを調整した場合は必ず機械が正常に作動することを確認してください。
作動の確認を行わずに作業を開始しようとすると思わぬ事故に繋がる可能性があります。

5.4 ナイフの点検・交換・取付け

■ 安全のため、ナイフの作業前点検を行ってください。 ■



警告

- 1) 本機には鋭利なナイフが使用されていますので、点検・交換時のナイフ脱着の際には必ず製品付属の「ナイフ交換工具」を使用し、手袋等を使い絶対に素手で直接ナイフに触らないでください。ケガをする恐れがあります。
- 2) ナイフを交換する際には必ずメーカー純正品とご指定ください。社外ナイフの使用は危険であるばかりでなく、使用による故障・事故についても保証の対象外となります。
- 3) 前回の作業時に縁石や木の根等にナイフが当たり、ナイフやナイフディスクの曲がりや欠損が生じていないか、ナイフやナイフディスクが摩耗していないか、作業開始前に点検してください。
- 4) ナイフの摩耗、割れ、曲がり、欠損等を放置したまま作業を続けると、作業中にナイフが折損して飛び出し、重大な人身事故を招く原因や、本機破損の原因となる場合があります。



注意

- 1) 本機を傾ける時は、ハンドル側よりみて右側を下にするか、前側を上へ上げ、エンジン・キャブレター側を必ず上へしてください。逆に傾けると、キャブレターの中にオイルが流入し、始動しなくなります。また、ガソリンがこぼれ危険です。
- 2) ナイフの交換作業は適切な工具と整備技術をおもちの方が実施してください。
- 3) ナイフ締め付けボルトも消耗します。ナイフを交換する際には必ずナイフ締め付けボルトも同時に交換するようにし、決して他のボルトで代用しないでください。

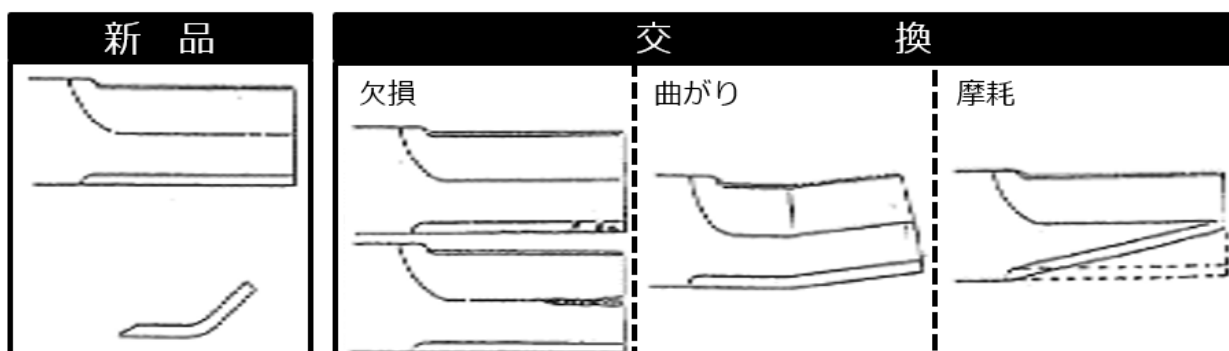
5.4.1 ナイフの点検・交換



- ① エンジンを停止し、念のため点火プラグのキャップを外してください。
- ② 本機をハンドル側から見て右側を下に倒すか、前側を上へ上げてください。
- ③ ナイフの締め付けボルトが緩んでいないか点検してください。
- ④ ナイフの割れ、曲り、磨耗を点検してください。

※締め付トルク 40N・m (408kgf・cm)

※下図の様に異常な状態になっていたら、ナイフの左右を入れ替えて使用するか、交換してください。

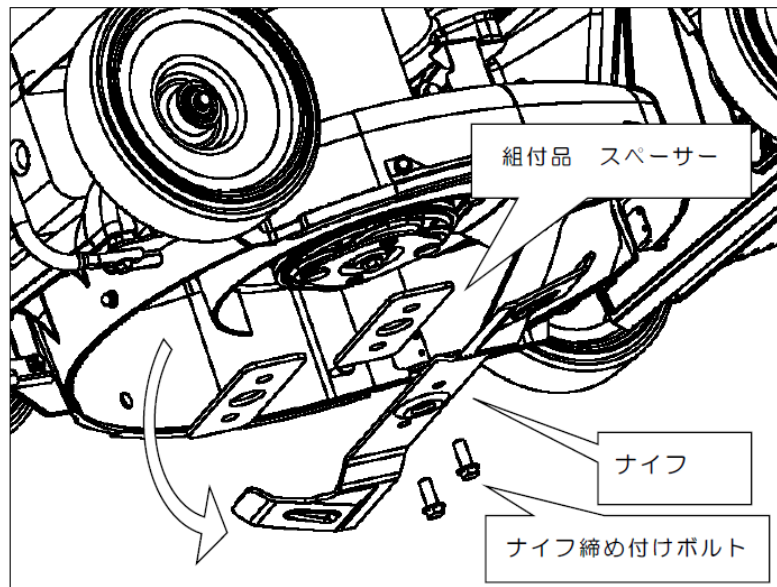


参考；

- 1) 乾燥した土や砂を含んだ場所での使用はナイフの摩耗が早いため、頻繁に点検してください。
- 2) 予め予備のナイフをお買い求め頂き、手元におかれておくことをお勧めいたします。

5.4.2 ナイフの取付け方

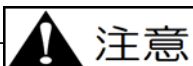
- ナイフは、本機の上面对して常に右回りに回転します。
- 両ボルト共に右ネジが使用されています。ナイフボルト脱着の際には注意してください。
- 下図を参考にスペーサーが B B C のカラーにはまる位置でセットし、ナイフと共に 2 本のナイフ締め付けボルトで締め付けてください。スペーサーがきちんとはまっていないとナイフの折損、欠け、振動等の原因となります。
- ナイフセット後は各ボルト・ナットを元の通りに確実に締め付けておいてください。



参考； スペーサー装着による刈高さ調整

通常よりも低く刈りたい場合は上図のようにスペーサー（同梱品）を装着してご使用ください。ナイフ締め付けボルトをはずして、図のように組付済スペーサーとナイフの間に同梱品スペーサーをはさみこんで取り付けてください。

※刈高さが低くなりますので、未着用時に比べて刈取性能が落ちる場合があります。発生現象を 7.3 自己診断表を参照の上適切な処置をしてください。



注意

ナイフの位置が低くなりますので、スペーサー未着用時より石等の飛散物が増える可能性があります。使用時には未着用時以上に安全には十分注意してください。

参 考 ： 刈 高 さ 通常 14～74mm スペーサー着用時 10～70mm

5.5 長期保管のしかた

5.5.1 長期保管の準備

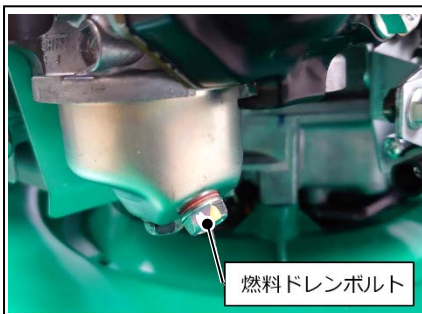
- 燃料タンクやキャブレタ内に燃料を残したまま長期保管すると、
→始動不良や出力低下等のトラブルの原因となります。



危険

- 1) 燃料を抜く時は風通しの良い場所で、くわえタバコや裸火等の火気には十分注意し、抜いた燃料の取扱いには十分に注意してください。
- 2) 燃料タンク内のガソリンを抜く時、または本機にカバーをかける時にはエンジンとマフラが十分に冷えているのを確認してからにしてください。

- 1)本機を30日以上使用しないときは、燃料変質による始動不良、または運転不調にならないように燃料タンク及び気化器内の燃料を抜き取ってください。



①燃料タンク内の燃料

燃料フィルタポットを外し、受け皿等を当ててから燃料コックを「開」位置にして抜き取ってください。

②気化器内の燃料

気化器下部の燃料ドレンボルトを外して抜いてください。

③安全のため、燃料コックは必ず閉めてください。

- 2)各部の清掃を十分に行ってください。特にリコイルスタータ・エアクリーナ・マフラ・気化器付近やカバー内に堆積した泥やホコリをエア吹き等できれいに取り除き、サビが出ている箇所はサビを取り除いて防錆塗料を塗布しておいてください。

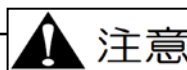
- 3)各箇所に注油・給脂をおこない、不具合箇所は修理しておいてください。

- 4)屋根のある風通しの良い湿気の少ない場所に本機を水平にして保管してください。

- 5)本機にカバー等をかけて、ほこりがつかないようにしてください。

(＊本機カバーは付属していません。)

5.5.2 次回使用時の注意



注意

- 1) 新鮮な燃料を使用してください。
- 2) 作業前の点検を行ってください。
- 3) 各操作レバーが正しく作動するか確かめてください。(毎回始業時)
- 4) 各部のボルト・ナット類に緩み、脱落がないか確認してください。
- 5) 本機を少し動かして異常音、異常発熱の有無を調べてください。
- 6) 各部を十分に馴染ませる為、最初の2～3時間は無理な作業はさけてください。

6. 付表

6.1 仕様(参考数値)

名 称		ローンモアー
型 式		GRH537A
全長×全幅×全高(mm)		1,605×564×1,050
刈 幅(mm)		530
重 量(kg)		52
バック容量(ℓ)		80
刈 高(mm)		14～74 (スペーサー着用時 10～70)
ナ イ フ(枚)		バーナイフ (ウイング付き)
速 度(km/h)		0～4.2
クラッチ 方式	走 行	デッドマン式クラッチ
	刈 取	デッドマン式ブレーキ付単板クラッチ(2 モーション)
ミッションオイル(ℓ)		HST 0.22 (VG46) ギヤ 0.17(#90)
エ ン ジ ン	名 称	ホンダ
	型 式	GXV160
	排気量(cc)	163
	潤滑油量(ℓ)	0.65
	始動方式	リコイルスタータ
	点火プラグ	W16EP-U,W16EPR-U(ND)/BPR 5 ES, BP 5 S
	タンク容量(ℓ)	1.4

※本仕様は改良のため予告なく変更する事があります。

6.2 工具袋・同梱品明細

No.	部 品 名	規格・寸法	個数	備 考
1.	取扱説明書		1	
2.	品質保証書		1	
3.	ブラグレンチ	21mm	1	
4.	ブラグレンチバー	6×120	1	
5.	ブレードスペーサー		1	
6.	六角ボルト	M8×25(8T)	2	
7.	角根頭ボルト	M8×35	2	
8.	六角袋ナット	M8	6	
9.	バネ座金	8	6	
10.	平座金 8	8	6	
11.	両口スパナ	10×12	1	
12.	ゴーグル	防曇タイプ	1	保護具
13.	コルゲート	φ15×600L	1	0268-72300
14.	コードバンド(黒)		2	0268-72400

6.3 消耗品明細

No.	部 品 名	部 品 番 号	個数/台	備 考
1.	ウイングナイフ 530	0268-72110	1	
2.	ナイフ締め付けボルト	89-1254-100252	2	座付きボルト M10×1.25×25
3.	ナイフクラッチワイヤ	0268-71100	1	
4.	走行クラッチワイヤ	0269-70100	1	
5.	スロットルワイヤ(H)	0268-71400	1	
6.	変速ワイヤ	0269-70200	1	
7.	収草バック〔DWO〕 80	0278-77400	1	
8.	GR 警告ラベル	0270-74200	1	安全のため、取扱説・・・
9.	ナイフ警告ラベル	0334-71800	2	手や足を近づけたり・・・

7.点検表

7.1 定期点検

★点検や整備を怠ると事故や故障の原因となる事があります。正常な機能を発揮させ、いつも安全な状態であるようにこの「定期点検表」を参考に点検を行って下さい。

★年次点検は1年に1回、月次点検は1ヶ月に1回、始業点検は作業を開始する前に毎日点検を行うようにして下さい。

項目		点検内容	点検実施時期			
			始業	月次	年次	
原動機	本体	①かかり具合、異音	始動の際、容易に起動するか。	○	○	○
		②回転数と加速の状態	回転速度を徐々に上げ、正常に滑らかに回転するか。	○	○	○
		③排気の状態及びガス漏れ	排気色、排気臭及び排気音は正常か。	○	○	○
		④エアクリーナの損傷、弛み、汚れ	損傷なく、取付部に弛み、著しい汚れはないか。	○	○	○
		⑤シリンダヘッドと各マニホールド締付部の弛み	ガス漏れ、亀裂、著しい腐食はないか。 ＊（正常締付トルクで弛みはないか）			○
		＊⑥弁隙間	（正規の隙間であるか）			○
		＊⑦圧縮圧力	（正規の圧縮圧力であるか）			○
		⑧エンジンベースの亀裂、変形、ボルト・ナットの弛み。	エンジンベースに亀裂、変形はないか。 ボルト・ナットに弛みはないか。	○	○	○
	潤滑装置	①油量、汚れ。	オイルの量は適切か、オイルに汚れ、水・金属等の混入はないか。	○	○	○
		②油漏れ。	オイルシール、ガスケット部に油漏れはないか。	○	○	○
	燃料装置	①燃料漏れ。	燃料の漏れはないか。	○	○	○
		②燃料フィルタの詰まり。	著しい汚れ、変形、目詰まりはないか。		○	○
		③燃料の量・質。	燃料は入っているか、又質は良いか。	○	○	○
	電気装置	電気配線の接続部の弛み、損傷。	ハーネス接続は適切か、又弛み、損傷はないか。		○	○
	清浄装置	①エアクリーナエレメントの汚れ	エアクリーナエレメントに汚れはないか。	○	○	○
		②エレメントの破損。	エレメントに破れ、スリ切れはないか。	○	○	○
	冷却系統	①リコイルカバーへの草屑等の目詰まり。	リコイルカバーが草屑等で目詰まりしていないか。	○	○	○
		②マフラへの草屑等の堆積。	マフラ周辺に草屑が堆積していないか。	○	○	○
伝達装置	ユニバーサルジョイント	①異音。以上発熱及び作動	作動に異常はないか、又、異音、異常発熱はないか。	○	○	○
		②損傷、汚れ。	亀裂、損傷、著しい汚れはないか。		○	○
	ミッション	①異音、異常発熱及び作動。	作動に異常はないか、又、異音、異常発熱はないか。		○	○
		②油量、汚れ。	オイルの量は適切か、又、著しい汚れはないか。			○
		③油漏れ。	オイルシール、パッキン部に油漏れはないか。	○	○	○
車体	車体	亀裂、変形及び取付ボルト・ナットの弛み、脱落。	フレームの亀裂、変形、ボルト・ナットの弛み、脱落はないか。		○	○
	カバー	亀裂、変形、腐食。	亀裂、変形、腐食はないか。			○
	レバー、ワイヤ	レバー、ワイヤの損傷、弛み、ガタ、割ピンの欠損。	作動及び取付状態、著しい損傷及び弛み、ガタ、脱落はないか。	○	○	○
走行装置	タイヤ（ホイール）	①空気圧及び溝の深さ。	基準値内であること。	○	○	○
		②亀裂、損傷及び偏摩耗。	亀裂、損傷及び偏摩耗はないか。	○	○	○
		③金属片、石その他の異物の噛み込み。	異物の噛み込みはないか。	○	○	○
		④ボルト・ナットの弛み、脱落。	ボルト・ナットの弛み、脱落はないか。	○	○	○
		⑤ガタ、異音。	取付部に異音、ガタはないか。		○	○
	表示マーク	損傷。	警告ラベル及び銘板が損傷なく取り付けられているか。		○	○

※ *印は販売店にご相談下さい。但し、有料となります。

7.2 エンジン不調とその処理方法

もしエンジンの調子が悪い場合があれば、次の表により診断し、適切な処置をして下さい。

現 象	原 因	処 置
始動困難な場合 (始動しない場合)	スロットルレバーが「始動」の位置でない。	スロットルレバーを「始動」の位置にする。
	チョークを引いていない。	エンジン冷却時、スロットルレバーを  位置にする。
	燃料が流れない。	燃料タンクを点検し、沈殿している不純物や水分を除去する。 燃料コックのストレーナを取り外し、カップ内の沈殿物を除去するとともに付着しているゴミを取り除く。
	燃料送油系統に、空気や水が混入している。	異物を取り除き、締付バンドを点検し、損傷があれば新品と交換する。
	寒冷時にオイルの粘度が高く、エンジンの回転が重い。	気温によってオイルを使い分けする。
	点火コイル、又はユニットの不良。	* 点火コイル、又はユニットを交換する。
	点火プラグの不調。	点火プラグの電極の隙間を点検し、調整する。 新しい点火プラグと交換する。
出力不足の場合	燃料不足。	燃料を補給する。
	エアクリーナが目詰まり。	エレメントを清掃する。
	燃料の質が悪い。	良質の燃料と交換する。
	チョークが完全に開いていない。	スロットルレバーを『  (高速) 』に戻す。
	冷却系統が目詰まりをしている。	リコイルスタータ周辺を清掃する。
突然停止した場合	燃料不足。	燃料を補給する。
	燃料コックが閉じている。	燃料コックを開く。
排気色が異常に 黒い場合	エアクリーナエレメントが目詰まり。	エレメントを清掃する。
	燃料の質が悪い。	良質の燃料と交換する。
マフラから黒煙が出て 出力が低下した場合	エアクリーナエレメントが目詰まり。	エレメントを清掃する。
	チョークが完全に開いていない。	スロットルレバーを『  (高速) 』に戻す。
マフラから青白煙 が出た場合	エンジンオイルの入れすぎ。	正規のオイル量にする。
	シリンダ・ピストンリングの摩耗。	* ピストンリングを交換する。
エンジン回転が安定し ない(上昇しない)	チョークが完全に開いていない。	スロットルレバーを『  (高速) 』に戻す。
	燃料の質が悪い。	良質の燃料と交換する。
しばらくすると エンストする。	点火コイルの不良。	* 点火コイルを交換する。
	燃料フィルタが目詰まり。	燃料フィルタを清掃する。
排気に刺激臭がある。	燃料の質が悪い。	良質の燃料と交換する。

※ * 印は販売店にご相談下さい。但し、有料となります。

※ わからない場合は、お買い上げいただきました販売店にご相談下さい。

7.3 自己診断表

もし次のような現象が発生した場合には、取扱説明書を参照して適切な処置をしてください。

現 象	原 因	処 置
刈草がうまく放出しない。	草が湿っている。	草が乾燥してから作業する。
	草が長い。	刈高さを高くして、二度刈する。
	刈高さが低い。	刈高さを高くする。
	エンジン回転数が低い。	最高回転数にする。
	作業速度が速い。	作業速度を落とす。
刈残しが出る。	作業速度が速い。	作業速度を落とす。
	エンジン回転数が低い。	最高回転にする。
	ナイフの摩耗、破損。	新しいナイフと交換する。
	ナイフカバー内への草屑の堆積。	ナイフカバー内面を清掃する。
	草が長い。	二度刈りをする。
土削りが発生する。	刈高さが低い。	刈高さを高くする。
	旋回速度が速い。	旋回時の速度を落とす。
	地形にうねりがある。	草刈りパターン(刈取方向)を変える。
	地形に起伏(凸凹)が多い。	刈高さを高くする。
	ナイフの曲がり。	新しいナイフと交換する。
ナイフがスリップする。	ナイフクラッチワイヤが伸びている。	ナイフクラッチワイヤを調整する。
	ナイフカバー内に異物が詰まっている。	ナイフカバー内を清掃する。
	BBC クラッチが摩耗している。	BBC を交換する。
変速しない。	変速の位置がズれている。	変速ワイヤの調整
	ミッションの不具合。	ミッションの修理。
振動が大きい。	ナイフのバランスが悪い。	ナイフを修正する。
	ナイフの損傷、摩耗。	新しいナイフと交換する。
	BBC のベアリングが損傷している。	BBC を交換する。
	エンジン PTO 軸が曲がっている。	エンジン PTO 軸を交換する。
刈り取り作業負荷が大きい。	エンジン回転が低い。	エンジン回転を上げる。(3200rpm 程度) (エンジン回転数をチェックする。)
	作業速度が速い。	作業速度を落とす。
	ナイフに草が堆積、又は巻きついている。	エンジンを停止して刈取部を清掃する。
	草が長い。	刈高さを高くして、二回刈りをする。
	刈高さが低い。	刈高さを高くする。
タイヤがスリップする。	刈高さが低い。	刈高を高くして二回刈りをする。
	ナイフ及びナイフカバー内への異物の堆積。	ナイフ及びナイフカバー内を清掃する。
	圃場が軟弱である。	圃場が乾くまで作業を中断する。
異物が飛散する。	圃場への異物の混入。	刈高さを上げるか、予め異物を除去する。
走行しない。	HST オイル不足。	HST オイルの補充
	HST オイルにエアがかんでいる。	エアを抜く (しばらく後輪を少し浮かせカラ回しする)
	HST オイルに水分等の混入がある。	(1～ 2 度) オイル交換を行う
	クラッチがつながっていない。	クラッチワイヤを調整する。
ナイフの回転が停止しない。	BBC クラッチがつながっている。	ナイフクラッチワイヤを調整する。
ナイフ停止後、再始動するとエンジン回転が上昇しない。	ナイフもしくはナイフ軸に刈草等が巻きついている。	ナイフもしくはナイフ軸に巻きついた草屑を取り除く。

※わからない場合には、お買い上げいただいた販売店にご相談ください。